



資産形成の学校

出口戦略の基本講座

定率取り崩しの 長所と短所

Q

定率取り崩しがいい！
という情報を耳にするが
本当にいいんですか？

A

定率取り崩しが中心になるのは間違いないが、なぜそうなのかを理解をしてください。

定率取り崩し
のメリット

「収益率配列リスク」

定率取り崩しのメリット

定率取り崩しは、定額取り崩しの収益率配列のリスクを回避できる

例) 期末残高の6%の定率取り崩し

- ・運用資産2000万円を毎年年初(1月1日)に生活費として残高の6%を取り崩し
- ・取り崩しをしない分は、その年の運用利回りで10年間毎年運用を続ける

取り崩し年数	年間の利回り	残高の6%[万円]	年初残高[万円]	期末残高[万円]	増減額(年初-期末)[万円]
1年目	20.0%	120	2000	2256	256

※年初残高: 1月1日時点の資産額[万円]

※期末残高: 12月31日時点の資産額[万円]

※期末残高2256万円

= (2000万円 - 2000万円 × 6%) + (2000万円 - 2000万円 × 6%) × 20%

※増減額(年初-期末) 256万円 = 2256万円 - 2000万円

定率取り崩しのメリット

定率取り崩しは、定額取り崩しの収益率配列のリスクを回避できる

例) 前半がプラス利回り、後半がマイナス利回りの場合
10年後の残高1448万円、総取り崩し額2911万円

※小数点以下は四捨五入

取り崩し年数	年間の利回り	残高の6%[万円]	年初残高[万円]	期末残高[万円]	増減額(年初-期末)[万円]
1年目	20.0%	120	2000	2256	256
2年目	10.0%	135	2256	2333	77
3年目	30.0%	140	2333	2851	518
4年目	9.0%	171	2851	2921	70
5年目	12.0%	175	2921	3075	154
6年目	-5.0%	184	3075	2746	-329
7年目	-8.0%	165	2746	2375	-371
8年目	-10.0%	142	2375	2009	-366
9年目	-4.0%	121	2009	1813	-196
10年目	-15.0%	109	1813	1448	-364
10年間の平均利回り	3.9%				
取り崩し総額		1463			
残高と取り崩し額の合計				2911	

定率取り崩しのメリット

定率取り崩しは、定額取り崩しの収益率配列のリスクを回避できる

例) 前半がマイナス利回り、後半がプラス利回り、の場合

10年後の残高1448万円、総取り崩し額2216万円

※小数点以下は四捨五入

取り崩し年数	年間の利回り	残高の6%[万円]	年初残高[万円]	期末残高[万円]	増減額(年初-期末)[万円]
1年目	-15.0%	120	2000	1598	-402
2年目	-4.0%	96	1598	1442	-156
3年目	-10.0%	87	1442	1220	-222
4年目	-8.0%	73	1220	1055	-165
5年目	-5.0%	63	1055	942	-113
6年目	12.0%	57	942	992	50
7年目	9.0%	60	992	1016	24
8年目	30.0%	61	1016	1242	226
9年目	10.0%	75	1242	1284	42
10年目	20.0%	77	1284	1448	164
10年間の平均利回り	3.9%				
取り崩し総額		767			
残高と取り崩し額の合計				2216	

定額取り崩しと定率取り崩し

	前半がプラス、後半がマイナス	前半がマイナス、後半がプラス
定額 取り崩し 120万円	10年後の残高1645万円	10年後の残高698万円
	取り崩し額1200万円	
	総取り崩し額2845万円	総取り崩し額1898万円
定率 取り崩し 6%	10年後の残高1448万円	
	取り崩し額1463万円	取り崩し額767万円
	総取り崩し額2911万円	総取り崩し額2216万円

定率取り崩し
のデメリット

定率取り崩しのデメリット『取り崩し金額が変動する』

定率取り崩しの場合、取り崩し金額が変動し、取り崩し額が減少傾向に

例) 年間の利回りを4%一定&期末残高の6%の定率取り崩し

引き出すことで毎年、**期末残高が減少するため、取り崩し金額も減少していく**

取り崩し年数	年間の利回り	残高の6%[万円]	年初残高[万円]	期末残高[万円]	増減額(年初-期末)[万円]
1年目	4.0%	120	2000	1955	-45
2年目	4.0%	117	1955	1911	-44
3年目	4.0%	115	1911	1869	-43
4年目	4.0%	112	1869	1827	-42
5年目	4.0%	110	1827	1786	-41
6年目	4.0%	107	1786	1746	-40
7年目	4.0%	105	1746	1707	-39
8年目	4.0%	102	1707	1668	-38
9年目	4.0%	100	1668	1631	-37
10年目	4.0%	98	1631	1595	-37
10年間の平均利回り		4.0%			
取り崩し総額		1086			
残高と取り崩し額の合計				2681	

定率取り崩しのデメリット『取り崩し金額がわかりづらい』

定率取り崩しの場合、取り崩し金額が変わるために予想しづらい

取り崩し年数	年間の利回り	残高の6%[万円]
1年目	20.0%	120
2年目	10.0%	135
3年目	30.0%	140
4年目	9.0%	171
5年目	12.0%	175
6年目	-5.0%	184
7年目	-8.0%	165
8年目	-10.0%	142
9年目	-4.0%	121
10年目	-15.0%	109
10年間の平均利回り	3.9%	
取り崩し総額		1463
残高と取り崩し額の合計		

例) 期末残高の6%の定率取り崩し

左図の場合のとき

・最小取り崩し額: 109万円

・最大取り崩し額: 184万円

10年間で75万円の差がある



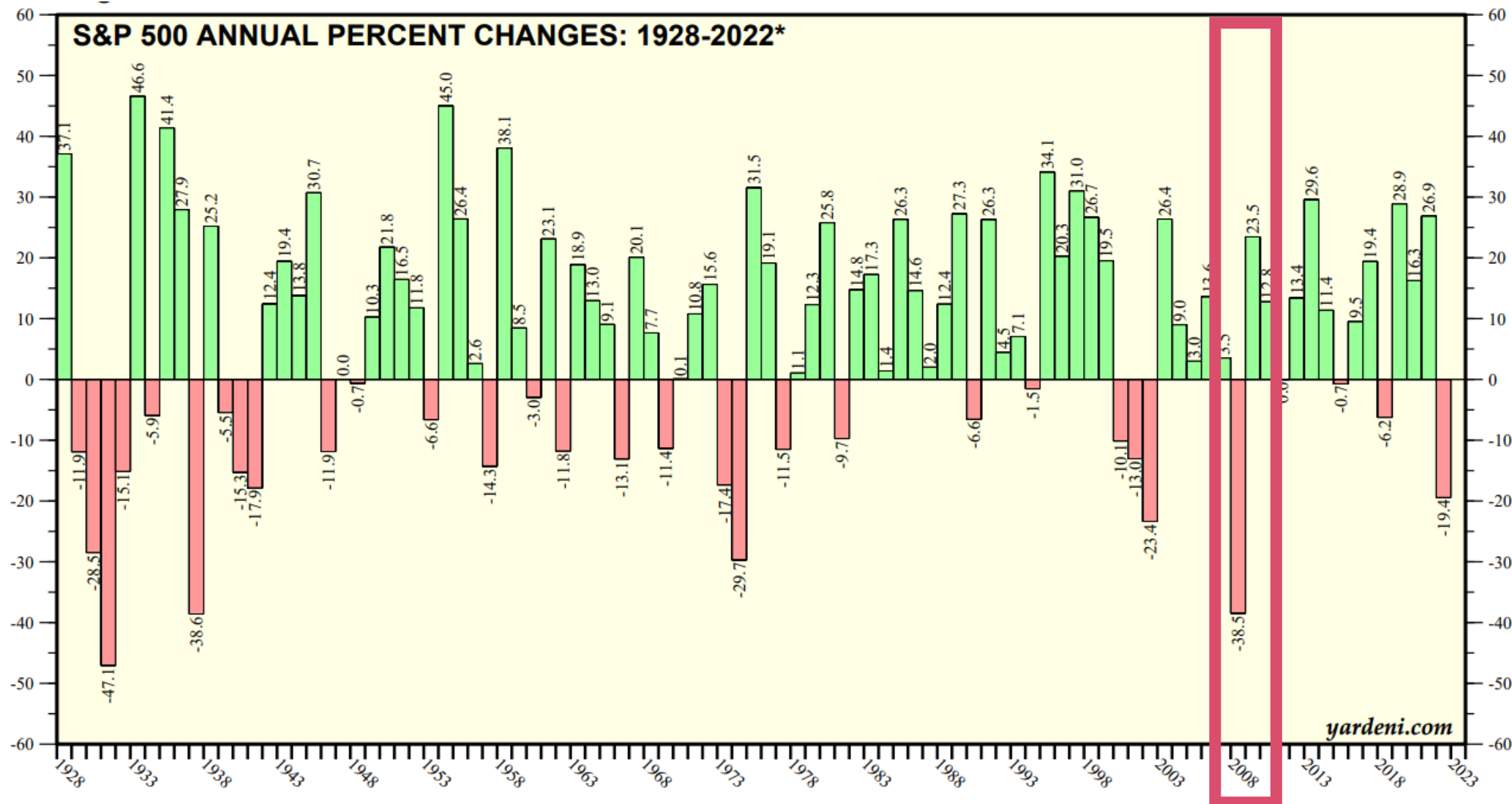
生活費として使う場合は、
金額の変化に生活費が足りるのか
調整する必要がある

取り崩しの初期に
暴落がきたら・・・

参考 定率なら取り崩しの初期の大暴落でも元本を残せる

S&P500の年間利回り

例) リーマンショックが取り崩し1年目で起こった場合



出典: Stock Market Indicators: Historical Monthly & Annual Returns

参考 取り崩しの初期の大暴落でも元本を残せる

年	取り崩し年数	年間の利回り	取り崩し額[万円]	年初残高[万円]	期末残高[万円]	増減額(年初-期末)[万円]
2009	1年目	-38.5%	120	2000	1156	-844
2010	2年目	23.5%	120	1156	1280	124
2011	3年目	12.8%	120	1280	1308	28
2012	4年目	0.0%	120	1308	1188	-120
2013	5年目	13.4%	120	1188	1211	23
2014	6年目	29.6%	120	1211	1414	203
2015	7年目	11.4%	120	1414	1442	28
2016	8年目	-0.7%	120	1442	1313	-129
2017	9年目	9.5%	120	1313	1306	-7
2018	10年目	19.4%	120	1306	1416	110
10年間の平均利回り		8.0%				
取り崩し総額			1200			
残高と取り崩し額の合計					2616	

定額取り崩し

10年後の期末残高

1416万円

初期の暴落で
元本を減らしてしまう

年	取り崩し年数	年間の利回り	残高の6%[万円]	年初残高[万円]	期末残高[万円]	増減額(年初-期末)[万円]
2009	1年目	-38.5%	120	2000	1156	-844
2010	2年目	23.5%	69	1156	1342	186
2011	3年目	12.8%	81	1342	1423	81
2012	4年目	0.0%	85	1423	1338	-85
2013	5年目	13.4%	80	1338	1426	88
2014	6年目	29.6%	86	1426	1737	311
2015	7年目	11.4%	104	1737	1819	82
2016	8年目	-0.7%	109	1819	1698	-121
2017	9年目	9.5%	102	1698	1748	50
2018	10年目	19.4%	105	1748	1962	214
10年間の平均利回り		8.0%				
取り崩し総額			941			
残高と取り崩し額の合計					2903	

定率取り崩し

10年後の期末残高

1962万円

初期の暴落があっても
少なく取り崩しできる

まとめ

定率取り崩しのメリットとデメリットを理解して出口戦略を考えてください

メリット

- ・取り崩しの初期に大暴落がきても対応できる
- ・毎年の利回りの並び方の問題を回避できる

デメリット

- ・取り崩し金額が変動してしまう
- ・毎年の生活費として取り崩し金額が違うのはわかりづらい



定率の取り崩しは、

出口戦略の中心になるのは間違いないが、デメリットも理解をする。

Q

定率取り崩しがいい！
という情報を耳にするが
本当にいいんですか？

A

定率取り崩しが中心になるのは間違いないが、なぜそうなのかを理解をしてください。